



新大牟田駅の利用促進に向け さらなる魅力と賑わいの創出を



社民・民主・護憲クラブ
森田 義孝 議員

6月14日 一問一答方式により質問

■1 市長の政治姿勢とまちづくりについて（1）第2期実施計画と今後のまちづくり（2）地方自治体に要請された「給与減額支給措置」（3）自治（まちづくり）基本条例制定（4）三川坑跡の保存・整備 ■2 九州新幹線新大牟田駅の魅力と賑わいへの今後の対応・対策について（1）新大牟田駅観光プラザの利用状況（2）新大牟田駅利用促進に向けた二次交通の利便性向上（3）新大牟田駅周辺の賑わいにつながる事業 ■3 小学校給食事業について（1）給食事業委託校の状況（2）併用方式（直営拠点校と民間委託校）の今後の方向性（3）今年9月からの委託校の保護者等への説明状況（4）直営校から委託校への今後のスケジュール

九州新幹線新大牟田駅の 魅力とにぎわいへの 今後の対応と対策について

新大牟田駅利用促進に向けた 二次交通の利便性の向上

問 二次交通の利便性の向上は重要な課題。市としての取り組みは。

答 西鉄バス大牟田（株）に対し、新幹線との接続を考慮した路線バスダイヤの検討の申し入れを行った。また、以前からの懸案だった空港バスの同駅への乗り入れの要望を本年4月に行い、具体的に検討すると回答された。

引き続き同駅の利用促進に向けアクセス向上を促し、利便性が向上するよう取り組みたい。



新大牟田駅

新大牟田駅の周辺の 賑わいにつながる事業

問 上記について聞きたい。

答 6月9日に、地元や市民グループで組織する実行委員会による新幹線朝市が大盛況のうちに開催された。また、観光協会が主体となって同駅や地元等と連携してフリーマーケット等のイベントを開催し、本市の観光情報を積極的に

来場者に提供することとしている。

今後も引き続き、地元並びに関係機関等と連携を図りながら、にぎわいの創出に努めたい。

市長の政治姿勢と まちづくりについて

第2期実施計画と 今後のまちづくり

問 上記について聞きたい。

答 第2期実施計画に掲げている事業を着実に実施していくことが将来のまちづくりへの足がかりになると考えている。

次世代育成支援や教育施策事業に重点を置いたソフト事業の充実など、これらの利用推進によって総合計画に掲げる三つの都市像「いい、やすらぐ安心都市」「活力と創意にあふれる産業都市」「市民と歩む自立都市」の実現に全力を挙げて取り組んでいく。

問 今年度の快適住マイル改修事業の申し込みは昨年度よりも多く、受付開始からわずか1時間30分、127件で受付を終了し、並んでいた多くの市民が受付されなかった。

この実態を踏まえ、今後どのように取り組まれるのか。

答 同事業の反響の大きさを感じている。今回の状況を十分検証し、今後の事業への取り組みについては補正予算での対応を含め、現在検討を行っている。

自治（まちづくり） 基本条例制定

問 同条例制定を25年度から27年度の新規事業として挙げられているが、同条例制定の目的と趣旨について聞きたい。

答 自治基本条例は、まちづくりの基本的な理念と原則、役割分担、仕組みなどを定めるもの。大牟田市民憲章の理念を市民と行政が共有し、共通の目的に進んでいくための基本ルールとして制定したい。

なお、条例全体の策定は、広く市民意見等を聞きながら、27年度の制定を目指したい。

三川坑跡の保存整備

問 三川坑跡活用検討審議会に対する保存整備にあたっての諮問内容を聞きたい。

答 諮問内容については、近代化産業遺産を活用したまちづくりプランの三川坑跡の保存・活用方針に示している三川坑跡敷地内の施設や機械等の保存の方法、三川坑周辺の近代化産業遺産や関連施設との一体的な活用策などを基本に、保存施設の取捨選択、施設の修復や見せ方の諮問を予定している。

なお、三川坑跡の活用については、審議会の設置のほかに、現在、より多くの市民意見を取り入れる仕組みを検討している。